

議長年頭所感 「自分最適化論」のすすめ

出前講座 建設産業で働く魅力届けたい

特集 **身近な森林を守る運動に参加してみよう**

会社訪問 労働環境の問題を話し合う

日建協活動意見交換 あなたの声が活動の原動力です!

統一土曜閉所日に 組合員同士の交流を深めました

統一土曜閉所運動 キャッチフレーズ募集

創ろう! 変わろう! MLU 名工建設職員組合

クロスワードタイム 他



## 『自分最適化論』のすすめ

日本建設産業職員労働組合協議会 議長 青本 健吾



組合員の皆様、明けまして、おめでとうございます。

昨年は、政府の不祥事に対する国民の社会的不安感、国家財政や景気の慢性的な悪化に加えて、原油価格や物価の高騰など、私たち一国民、一消費者の日常生活に直接的に影響を及ぼす事件が芽づる式に発生した一年だったのではないのでしょうか。また、社会や行政サービス、あるいは私たちが所属する企業母体が、様々な社会経済的な問題から私たちを保護すべき“盾”としての機能を必ずしも発揮しなかったため、外的要因に基づく上記の諸問題が直接的に私たちの暮らしの在り方に影響を及ぼすに至ったことが深く印象付けられます。

さて建設産業を魅力ある産業とするために、日建協では全ての活動の共通理念として「ワーク・ライフ・バランス」を掲げています。

「仕事と生活の調和」を意味するこの言葉は、働く事に拘束される時間が極端に多い私たちの現状に照らして考えてみた場合、理念の背景に時短推進活動ばかりが想像されます。それも決して間違いではありません。しかし私自身としましては別の観点からも「ワーク・ライフ・バランス」という理念の持つ意義深さを感じます。なぜならこの理念が“私たちが一人の人間としてどう生きるべきか”あるいは“自分の人生をどのように全うしていくべきか”といった、いわゆる「自分さがし」に寄与する一面を有しているとも考えられるからです。私たちの今の生活が「労働時間」と「生活時間」とに大別されるとするならば、自分自身を振りかえりながら“どのように働くべきか”“どのように生活時間を過ごすべきか”さらには“労働時間と生活時間をどのように配分するべきか”について考えることは、すなわち“自分はどう生きていくべきなのか”を考えることに等しいとも言えるのではないのでしょうか。

自分自身にとっての「ワーク・ライフ・バランス」とは何かについて考えていくと、労働も一日の生活の中の一部であり、労働と生活は相互に連鎖性を有するものであるということに気付かされます。当たりまえの事だと笑われてしまうかもしれませんが、多忙な日々を重ねる私たちにとっては、このような当たりまえの事さえも見過ごしがちになります。例えば「労働時間」については、単に組織その他の集団に拘束される時間と位置付け、「生活時間」から切り離して考えてみたり、充実した暮らしや生活の糧を得るための避けがたい時間として捉えられがちではないのでしょうか。もし、そうだとしたならば「ワーク・ライフ・バランス」という観点から現状の働き方を見つめ直した上で、その後の行動に移していくことは、自分自身が仕事と向き合う姿勢に、ある種の「意志」や「モチベーション」を付加することに繋がります。意志やモチベーションを抱きながら仕事と向き合うことができたならば、もはや労働時間を単なる拘束時間とは考えなくなるでしょうし、かえって仕事の遂行を通じて「悦び」や「充実」を得ることに繋がります。つまり「ワーク・ライフ・バランス」の理念を通じた「自分さがし」により、「生活時間」からも「労働時間」からも充実感を得ることが可能となるわけです。

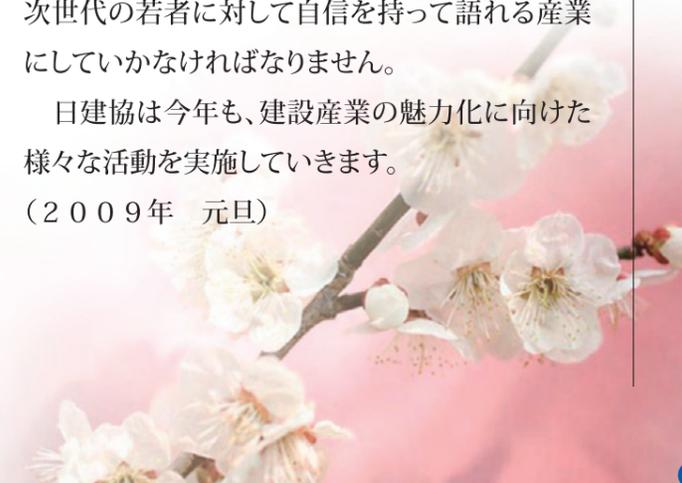
しかし、この理念がもたらす効果を楽しむことができるか否かは私たち一人ひとりの発意に

掛かってきます。組合員の皆様におかれましては、是非、自分自身の「ワーク・ライフ・バランス」について考えてみてはいかがでしょうか。

建設産業の魅力とは何か、どのように魅力化を図っていくべきか、についてのヒントもまた、「ワーク・ライフ・バランス」の中にはあります。つまりこの理念を通じて働く者一人ひとりに享受される「意欲」や「モチベーション」の集積である「活力」こそが、今の建設産業に一番求められていることだからです。建設産業に従事する者が、「日々の労働に対して魅力を感じているのか」、「どれほどの豊かな生活をおくっているのか」、そういった産業に生きる人間の姿を見た人々は等しく、自分自身も魅力を実感したいと感じるであろうし、私たち自身も魅力が実感できるこの産業に対して誇りを持てるようになるのではないのでしょうか。私たち自身の手で、魅力が実感できる活力溢れる産業に生まれ変わらせなくてははいけません。家族や、次世代の若者に対して自信を持って語れる産業にしていかなければなりません。

日建協は今年も、建設産業の魅力化に向けた様々な活動を実施していきます。

(2009年 元旦)



# 建設産業で働く魅力届けたい!

## 建設産業の未来を担う学生に出前講座を開催

産業の活性化のためには、産業の魅力を向上させていくことが必要不可欠ではないでしょうか。日建協では、建設産業の真の姿やものづくりの素晴らしさを通じて、産業の魅力を、次代を担う若い世代に伝える活動を行っています。今年度も建設工学を学ぶ学生を対象とした「出前講座」を開催しました。



## 出前講座の効果

出前講座実施後のアンケートでは「建設産業やゼネコンの仕事内容が良く理解できた」「建設産業に対して抱いていた悪いイメージが無くなった」とする声が多く、建設産業のイメージアップやゼネコンの仕事内容についての理解を得るという、活動の目的については一定の成果が得られたと考えます。

また、30%以上の学生が、「就職先としてゼネコンは考えていなかったが、選択肢の一つとして考えてみたい」(図3)と回答しました。

そして、「やりがいを見出せる仕事とはどんな仕事か」という質問には、「社会貢献できる仕事」「創造できる仕事」「達成感のある仕事」と回答する学生が多い結果となりました。建設産業はまさに「社会貢献」でき、「創造」「達成感」のある仕事です。

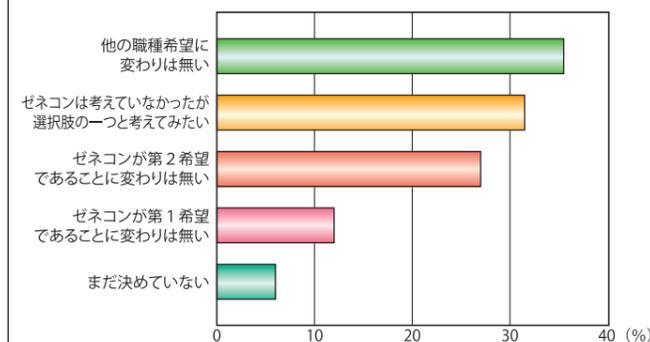


図3 希望する就職先(受講後に調査)

一方で、学生の休日に対する意識調査(図4)においては、30%以上が「土日は必ず休みたい」と答えており、作業所における土曜閉所の実現も、産業の魅力化に必要なことであると考察します。

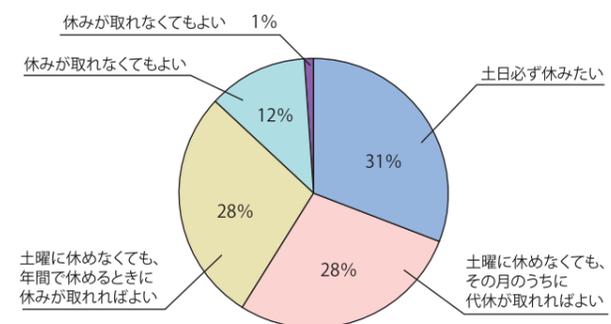


図4 希望する働き方

## おわりに

次代を担う若手が、建設産業に入職することで、次世代へ技術が伝承され、建設産業の継続的な発展へと繋がるのではないのでしょうか。

今後も加盟組合の皆さんの力をお借りしながら、建設産業で働く魅力や本当の姿を、次代を担う若手に伝えていきたいと思っております。

会することを期待しています」という熱いメッセージを送っていただきました。

講義終了後には、学生との意見交換会を実施しました。席上、学生からは「入社後に配属の希望は通るのか」といった質問や、女子学生から「ゼネコンに入社したいが、女性でも働いていけるのか」といった質問があり、建設産業で働くことを具体的にイメージしている学生も多い印象でした。

## ◆北海道大学で出前講座



米谷さん(ペンタユニオン) 熱心に講義を聞く学生

11月7日、北海道大学工学部(出席者64名(うち女性5名))において出前講座を行いました。

ペンタユニオンの米谷宏史氏を講師に迎え、現在従事している港湾の係留施設工事を通して、施設の目的や必要性に加え、高度な技術力によって現場が進められていることを現場技術者の視点で話していただきました。また、現場と技術研究所の仕事と比較して、それぞれの仕事の「達成感」や「苦労」の違いについて実体験を交えながら話していただきました。

また、当日はゼネコンの経営者の団体である、日建連(日本建設業団体連合会)の協力を頂きました。経営者側においても建設産業の魅力化については重要な課題と捉えているようです。

## 日建協出前講座に参加して ~日建連からのメッセージ~

私共日建連は、建設産業のイメージアップを目指した建設WEBサイト「BUILD UP!」(www.buildupper.com)の運営等、広報活動に力を入れています。

日建協さんが主催の「出前講座」は、学生に対して若手組合員が講師役となり、仕事における達成感や感動体験、時には厳しい「生の姿」を伝えていきます。

日建連としても、「出前講座」に協力し、盛り上げていきたいと考えています。

日本建設業団体連合会 常務理事 木本 建二氏

## 学生が見た「建設産業」「ゼネコン」

日建協では2006年春、全国の大学訪問を通して学生を対象とした建設産業やゼネコンについてヒアリング調査を実施しました。

その結果、多くの学生が建設産業に対し、「談合などの悪いイメージ」「3Kの産業」など、誤解を含んだ悪い印象を持っていることがわかりました。

また、ゼネコンを就職先として考えた時のイメージについて聞いたところ、「仕事の内容がわからないのでゼネコンへの就職は望まない」との声が多くありました。

このようなことから、建設産業の真の姿を伝え、建設産業で働く素晴らしさを伝えていくことが、産業の魅力向上に不可欠と考え、日建協では2006年秋から全国の大学に出向いて出前講座を実施してきました。

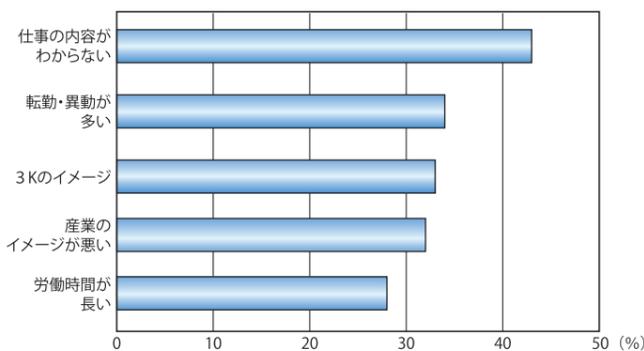


図1 ゼネコンを志望しない理由(大学訪問時調査)

## 今年度出前講座を開始

### ◆法政大学で出前講座をスタート

10月9日、今年度最初の出前講座を、昨年に引き続き法政大学工学部都市環境デザイン工学科(出席者は3年生71名(うち女性16名))にて実施しました。

講義ではまず、日建協から、建設産業の社会的役割の高さ、創造する喜び、仕事の達成感、高度な技術力、をキーワードに、建設産業で働く素晴らしさがどういったところにあるかについて講義をしました。

また、現場の生の声を学生に直に伝えようとゼネコンの第一線で働いている方を講師に迎えました。法政大学出前講座では、三井住友建設社員組合の元山義之氏、ペンタユニオンの佐藤昌宏氏に講師を務めていただきました。

講師の二人には、「ライフラインチャート」(図2)を用いて、「現場が完成して喜びを味わった」「仕事が大変忙しく、転職を考えた」などの入社以来の仕事に対する充実度の変遷について話をしていただきました。

元山氏には現在従事している浄水場工事を題材に、施工管理とはどういった仕事なのかということ、現場職員の一日の仕事のタイムスケジュールに沿いながら写真を交えて説明していただきました。

佐藤氏からは技術部門における仕事を通じて、ゼネコンが進めている環境関連事業の取り組み事例などを、自社の事例を取り上げながら、語っていただきました。

お二人からは学生に向けて「数年後、ものづくりの現場で再



佐藤さん(ペンタユニオン) 元山さん(三井住友建設社員組合)

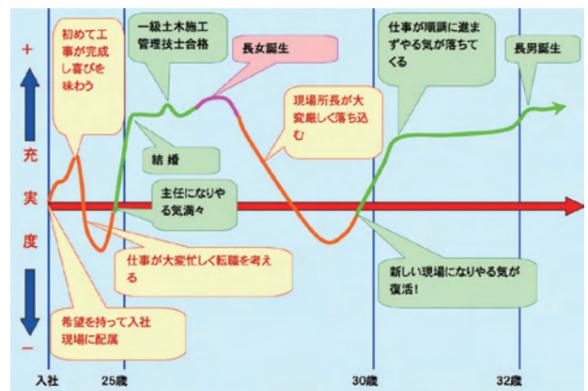


図2 仕事の充実度の変遷を表した「ライフラインチャート」

森を守ることは  
私達の生活を守ること

# 身近な森林を守る活動に参加してみよう

最近、環境問題、特に地球温暖化の記事をよく目にしませんか？ 洞爺湖サミットでも日本は1990年に比べてCO<sub>2</sub>排出量を6%削減する目標が再確認されました。私達も二酸化炭素の削減に向けて、毎日の生活の中でできることから取り組む必要がありますね。そこで今回は、日本の国土の約7割を占める“森林”の、保護活動に目をむけてみました。

## 森林作り参加への意識

国民の森林作り参加への意識は年々高くなっているそうです。保護活動への参加には募金、森林ボランティア活動や自然と触れ合うイベントなど多くの形があります。自治体や企業などが募集していたりするので、調べてみましょう。

## 企業も取り組んでいます

企業の様々な社会貢献活動の中で、森林保護の取り組みが各地で展開されています。社員による森林ボランティアのほか、飲料メーカーが自社の水源としての森林作りを行うなど、企業活動と関連させた取り組みも実施。加盟組合にも、育林事業などへのボランティア参加をしている企業があります。



下草刈りボランティアのようす  
「清水建設」HPより

## 知ってる？ “森林スペシャリスト”

森林や林業に関する知識をもっと深めたい人のために、スペシャリストの資格が作られています。野外活動の指導をする森林インストラクターや、樹木の保護や樹勢回復・治療を行う樹木医などがあります。



名称	主な事業内容	実施団体
技術士 (森林部門)	森林の技術 コンサルタント業務など	文部科学省
森林イン ストラクター	森林の案内、 野外活動の指導など	社団法人全国森林 レクリエーション協会
樹木医	樹木の健全度診断や 樹勢回復など	(財)日本緑化 センター

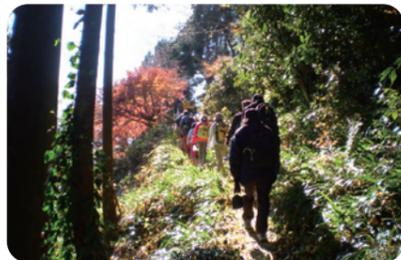
## クラフト作りと山歩きに行ってきました！

東京都八王子市にある高尾山での「初冬の高尾山とクラフト作り体験」イベントに参加してきました。参加者は小学生を含め9名。森林インストラクターの案内で高尾山の金比羅台まで森の小道を2時間ほどかけて散策しました。散策の途中では、森を守ることの大切さや森林の冬支度について教えてもらいました。

その後はクラフト作り。作業はふもとに下りて高尾森林センター (<http://homepage3.nifty.com/takaosc/index.html>) で行いました。センターでは、森林の管理のほかに、森の間伐材や木の実を使い、クラフト作りや炭作りをしています。間伐材やツル、木の実などは放っておくと朽ちて森を汚します。集めて燃やすとCO<sub>2</sub>を発生する原因となってしまいます。体験ではこれら森にある材料を有効に使い、いろいろなものを作れます。今回は時期的に松ぼっくりを使ってクリスマス飾りを作りました。



森林インストラクター 山田さん  
間伐して陽が差し込む森で間伐の  
必要性について説明してもらいました



なかなか険しい道、高尾山侮れず



森を抜けると東京一望

## ●クラフト作りのようす



どんぐりピッコロ：  
どんぐりの笛です。  
小さいのに意外と大きな音。  
現場の誘導にも使えるかも。



笛作りにはまずどんぐりの  
中身をきれいに掘り出します。  
ここで手を抜くといい音が  
鳴りません。1個目は力入りすぎ  
破壊、2個目でようやく成功。

## ●こちらは木の実を使ったクリスマス飾りづくり



本格的な工具も使用



いつになく真剣



子供に負けじと



完成

## 「高尾山花炭づくりと冬芽観察」イベント開催

今回、私が参加したイベントを主催した、「リビング多摩」では、次回は森林インストラクターと森を歩き樹木の春支度や冬芽を観察し、木の実や松ぼっくりなどで花炭作り体験のイベントを行う予定です。次世代に残したい自然に親しむ良い機会。家族や友達と参加してみたい方が多いでしょう。



高尾山で炭焼きを体験

日時 2009年2月5日(木) 午前8時50分集合  
場所 JR高尾駅北口改札前  
定員 30人(先着順)  
参加費 1人2000円(材料費・保険料込み。当日集金)  
対象 小学生以上(中学生以下は保護者同伴)  
申し込み サンケイリビング新聞社多摩本部  
042-527-1954へ電話で  
10:00~17:00土日祝日休み  
※応募者の個人情報はイベントの案内のみに使用

## 私たちが

この他にも環境への取り組みは様々な団体で取り組まれています。私達の上部組織である連合では「連合エコライフ21」という運動を行っており、環境に対しいくつかの実施項目を定めています。<http://www.rengo.org/>  
私の出身のフジタ職員組合ではペットボトルキャップの回収(エコキャップ運動)に取り組みはじめました。  
私達の産業はとかく環境破壊のイメージでとられますが、施工時のCO<sub>2</sub>削減やリサイクル、建築物自体への省エネルギー性能の向上や空間緑化などで環境問題にもっと貢献できる産業です。そのようなことに取り組むことで産業のイメージも上がるのではないのでしょうか。みなさんも仕事、生活の両面で身の回りの出来ることからやってみませんか。



こんなにいっぱい!

「ボクの家では…」  
我が家にはエコバックが沢山  
あります(一生かかっても  
使いきれません)。買い物には  
いつもエコバック持参。  
地球環境に貢献している…  
かなあ?



# 労働環境に対する問題点について 加盟組合企業との直接対話を

## ～2008年度 日建協秋季会社訪問 報告～

日建協では9月から10月にかけて、各加盟組合の企業を訪問し、日建協活動に対するご理解と私たちの抱える労働環境の問題点についての意見交換を行っています。今号では前号で載せきれなかった時短推進活動に対する会社側からの意見に加え、日建協の提言活動や産業の魅力化について会社側からいただいた意見をご報告します。

### 産業政策提言活動について

#### 契約内容の明確化と片務的体質の改善による労働時間の短縮に向けて

##### ●日建協の取り組みについて

**日建協：**「日建協では受発注者間の契約のなかで責任区分が明確化されていない業務を受注者側で行うことが長時間労働の一因であると考えています。そこで、長時間労働の解消策のひとつとして国土交通省が打ち出している契約内容の明確化にむけた施策の活用を掲げています。」



**会社側：**「国交省工事については、入札前の施工条件に関する質疑回答が以前より詳細になっている。そういう点で明確化は進んでいる。しかし、用地未買収、埋設物調査の不徹底等の部分が解決できていないため、工事が進まないというケースも多い。」



**会社側：**「全面的に賛成とは言えない。設計変更を認めてもらうためには必要資料をこちらでまとめる必要もあるのではないか？また、現実的な問題として設計変更時の図面の直しや測量図などは発注者側に対し技術的なサポートもしなければならない。全部任せると工期的にも間に合わなくなる。」



**会社側：**「以前役所との設計変更協議に国交省のガイドラインを提示してうまくいったことがあった。」

##### ●リーフレットについて

**日建協：**「施策広報用のリーフレット（※）についていかがでしょうか？日建協では職制を通じて施策を浸透させていくことが大切であると考え、そのツールとして作成しています。」（※施策広報用のリーフレットについてはCompass vol.779をご参照ください）



**会社側：**「分かりやすいリーフレットだ。特に施策を知らない職員への広報としては有効だと思う。ぜひ活用したい。」



**会社側：**「現場の職員は対応すべき業務がどこまで分からずに、依然として従来どおりの請け負的な発想で業務を行っている傾向にある。ぜひ活用したい。」

##### ●会社側の考え方について

**日建協：**「受発注者間の片務性について会社としてはどう考えますか。」



**会社側：**「商慣習として片務性の歴史があった。またそれを業界が甘んじて受けていた。発注者側の意識が変わるには時間がかかるだろう。」



**会社側：**「施工条件については『協議する』や『検討する』は認めないようにして文書として残す。」



**会社側：**「国交省の施策を武器として仕事を進めていくことが必要だ。設計変更も勝ち取り易くなる。『契約内容の明確化』を主張しながら設計変更をとることが重要だ。」

#### 民間建築工事における適正工期の実現に向けて

##### ●不適正行為を防止するガイドラインについて

**日建協：**「現在、国交省では短工期をはじめ、発注者の不適正行為を防止するガイドラインを作成・運用しようとする動きがあります。」



**会社側：**「国交省がガイドラインにおいて標準的な工期を示すことが望まれる。受注者側としても、品質に悪影響を及ぼすような短工期は怖い。」



**会社側：**「お願いベースのガイドラインでは効果が薄いのではないかと。罰則規定などを盛り込んだ法制化が実現すればいい。」



**会社側：**「受発注者を含めた産業全体の適正工期に対する意識の高揚にはつながると思う。」

##### ●日建協の取り組みについて

**日建協：**「適正工期実現のためには企業経営者側の意識を高めることも必要です。社員の休日の確保のためにも、過度な短工期受注を減少させるよう、ご協力をお願いします。」



**会社側：**「現在の短工期はマンパワーではすでに限界に近い。しかしこの問題は競争原理主義がその根本にあるため、抜け駆けする会社がでてくるだろう。1社だけでは取り組みにくい。」



**会社側：**「この取り組みは業界としての連携が大切である。実現には時間がかかるが言い続けることが必要だ。日建協には引き続きの活動をお願いしたい。」

### 産業の魅力化について

##### ●出前講座について

**日建協：**「日建協では、ゼネコンの仕事内容を誤解したまま就職を敬遠している学生に対して実際の私たちの仕事内容を伝える出前講座を開催しています。」



**会社側：**「業界としても取り組まなければいけない問題である。土木工学科でもゼネコンが何を行っているのかわからないという学生がいる。」



**会社側：**「大学側が生徒確保のため、施工管理ではなくデザインなどを優先して教えている傾向もある。」



**会社側：**「インターンシップを採り入れて、学生に実際の現場を見てもらうようにしているが、日建協の出前講座も非常に良い取り組みだと思う。」

##### ●学生から見た労働環境

**日建協：**「出前講座後に受講した学生からアンケートを集めていますが、長時間労働や休暇が少ないなど労働環境に不安を感じて、入職を躊躇する学生も多くなります。」



**会社側：**「最近では若年層の離職の問題も危惧している。労働環境は離職動機のひとつと思われるのでぜひ参考としたい。」



**会社側：**「若い人が入ってこなければ産業は活性化しない。学生のやりがいに答えるためにも、我々が魅力を上げていかないといけない。賃金と休日はやはり大切である。」

### 時短推進活動の取り組み事例

最後に締め切りの都合上、前号で紹介しきれなかった時短への取り組み事例を紹介します。

- ・閉所率が低迷していたこともあり、力を入れようと各支店長に対して指示した。さらに昨年からは会社と組合で9月にも独自の閉所日を設け、労使協働で取り組んでいる。
- ・具体的な休みとして、従前からの第2土曜の全休に加え、GW、夏季休暇と冬季休暇の9連休を促進するために計画有休を制度化した。若手は有休が10日しかないので不足分を付与する予定である。
- ・当社では、毎月、安全衛生協議委員会が長時間勤務者は報告を上げるようにしている。同じ者が続いて報告される場合は、支店長・部長から改善通達を出している。
- ・繁忙期間になる着工時と竣工時に現場支援をできる部隊を置いている。
- ・今年度より作業所長も異動時休暇の対象となるよう制度を拡大した。

今回の会社訪問を通じ強く感じられたことは、私たちの労働環境について、会社側も「こうしたい」「こうありたい」という改善に向けた意欲がこれまで以上に高まっている点です。これはワーク・ライフ・バランスをはじめとして現在の社会全体意識の流れが、労働環境についてあらためて考え直す方向に向かいつつあることの現われであると思います。こうしたことから今回の会社訪問でも、私たち日建協の活動内容に対し多くの会社から賛同の意見を得ると同時に、労働環境の改善に向けた方向性を同一にした非常に有意義な意見交換を行うことができました。日建協ではこの気運の高まりを損ねることなく、今後も会社側との直接対話の機会を積極的に設け、私たちの労働環境の改善に活かしていきます。



# あなたの声が活動の原動力です!

## 日建協活動意見交換

日建協ではみなさんに日建協活動に関心を持ち、積極的に参加していただくために、加盟組合の執行委員会や支部役員が集まる全国会議などに参加して日建協活動を紹介しています。今回のCompassではみなさんの声がどのような形で日建協活動に反映されていくのか、加盟組合のみなさんとの対話の様子を交えながら紹介したいと思います。

### ● 佐藤工業職員組合 於:佐藤工業本社会議室(2008.10.17)



執行委員会において16名の執行委員と支部委員に日建協活動を紹介しました。日建協の活動を「日建協活動の概要」、「時短推進活動」、「産業政策活動」の3つのテーマに分け、パワーポイントを用いて、自組合と日建協全体または他の加盟組合との労働時間等の比較グラフなどの資料を示し、参加者にできるだけ平易に、そして興味を持って話を聞いていただけるように工夫を凝らしました。

参加者からは、それぞれのテーマに関して、今後の日建協活動の参考となるような多くの意見をいただきましたが、その中で民間建築工事の提言活動に関していただいた意見・感想を紹介します。

#### <『4週8休を含む不稼働日を考慮した工期設定』提言への意見・感想>

**参加者:**建築工事の適正工期実現に向けて、施主や設計事務所等に対する働きかけと同時に、他産業の労働組合や一般の人へのアピールなども行ってみたいかどうか。マスコミを利用するなどして、世論を味方に付けるのも一つの方法かと思います。

**参加者:**官庁工事に対しては、発注者側も考慮して頂けるかもしれませんが、民間工事で適正工期を実現させることはなかなか難しいかと思います。しかし、確認申請窓口パンフレット等で適正工期の重要性をアピールすることは、良いアクションだと思いますのでぜひ全国展開してください。

**参加者:**「熾烈な受注競争の中で一企業のみが主張することは難しい…」業界団体・受注者側つまり適正工期実現を提言している側が、そのように認識している状況下での実現は非常に難しいと感じました。受注産業では、なんらかの縛り(ルール)がなければ、競争原理が働き、可能な限り発注者側の要望を請け負う業者が存在してしまうのは必然であると思えます。発注者側も、なんの縛りもなければ、メリットがないことをわざわざやるはずはないと思われま。業界団体・受注者側の足並みをそろえるための縛り作りが先決ではないでしょうか。

### ● 西松建設職員組合 於:愛宕山弁護士ビル(2008.10.24)



支部長会議に全国及び海外から参加されていた14名の支部長(代理の支部役員含む)と本部役員7名を対象に、日建協活動の概要と提言活動を紹介するとともに、参加者との意見交換を実施しました。

#### <意見交換の内容>

**参加者:**日建協が実施している公共工事における無報酬業務の解消に向けた提言活動が、発注者と受注者の間にみられる片務性解消につながることを期待します。同様の活動を国交省のみならず、地方自治体に対して実施する予定はないのですか?

**日建協:**地方自治体はあまりにも数が多いこと、また、各地方自治体をとりまとめる機関などもないことから難しいとは考えていますが、自治労(地方自治体職員を中心とした労働組合)などは意見交換の実績もあり、今後も提言先として考えています。しかし、まずは私たちが国交省へ働きかけることで、国交省が手本を示す形で改善し、各地方自治体がそれに習うことも期待しています。

**参加者:**発注者向けのガイドライン(※1)に日建協の主張が取り入れられる可能性はあるのですか? また、そのガイドラインはいつごろ策定される予定ですか?

**日建協:**現在、国交省の入札企画室で元請と下請との契約関係に関するガイドラインが策定され、元下関係に関するヒアリングが実施されているようです。その後、これまではあまり積極的に取り組まれていなかった発注者と元請との契約の適正化に向けたガイドラインが、年度内策定を目標に検討されるようです。日建協としては、適正工期の実現に向けた提言活動の内容が反映されるよう、働きかけていきたいと考えています。

その他にも現場の最前線で活躍しているみなさんからの多くの質問やご意見をいただきました。一般的に短工期で労働環境が厳しい物件の多い、民間マンション工事における現状についての情報なども聞かせていただき、提言活動を進めるうえで大変参考となりました。

(※1) 国土交通省が発注者に対し、受注者との契約で当然守るべきルールを明確にするなど、契約の適正化と適切な対応を求めたガイドラインの策定を予定している。発注者に対し適切な対応や法令上問題となる具体例などを示すことで、まずは発注者の意識改革を図ることを目的としており、発注者側の周知徹底を経てから悪質なケースには勧告対策などを検討、実施していくことが発表されている。

### ● ハザマユニオン 於:ハザマ本店プレザンルーム(2008.10.25)



支部代表者会議において、「日建協活動の概要」についてパワーポイントを用いて説明するとともに、25名の参加者との意見交換を行いました。

参加者のみなさんには、日建協活動には加盟組合並びに組合員一人ひとりの声を基に活動していること、そして加盟組合37,000人の声が政策提言に活かされていることを理解していただきました。意見交換を通じて、産業が抱える問題を解消するための産別組織として日建協の連帯は不可欠であり、その問題の解決に対する日建協活動への期待が大きいことを感じました。

#### <参加者の意見>

**参加者:**公共工事において、休日作業届を出す工事評価点が下がるといった意識が受注者側に浸透すれば、土曜閉所が進むかもしれません。

**参加者:**依然としてマンション現場の所定外労働時間が多いですが、日建協では発注者に対しどのような働きかけを行なっていますか。  
**日建協:**不動産協会や、大手デベロッパーへの提言活動などを行っています。適正工期確保の必要性については理解を示しながらも、現状では発注者自ら変えなければならないという認識は薄いように感じています。発注者側のメリットなども検討しながら、今後も粘り強く提言活動を実施していきます。

**参加者:**中期時短方針2008で掲げている、100時間以上の所定外労働をなくすために、日建協ではどのような活動をしているのですか。  
**日建協:**業界団体・企業経営者・行政にむけて改善を働きかけています。反応はさまざまですが、『産業の魅力化』という点で早急に改善しなければならないという認識は共有できていると感じています。

その他、無報酬業務解消にむけたリーフレット(CompassVol.779参照)の説明や、ワーク・ライフ・バランス推進にむけて行政と連携した日建協の活動なども紹介しました。また、組合組織率や36協定の締結内容についての質問もあり、日建協に加盟している組合の事例を紹介しながら説明しました。

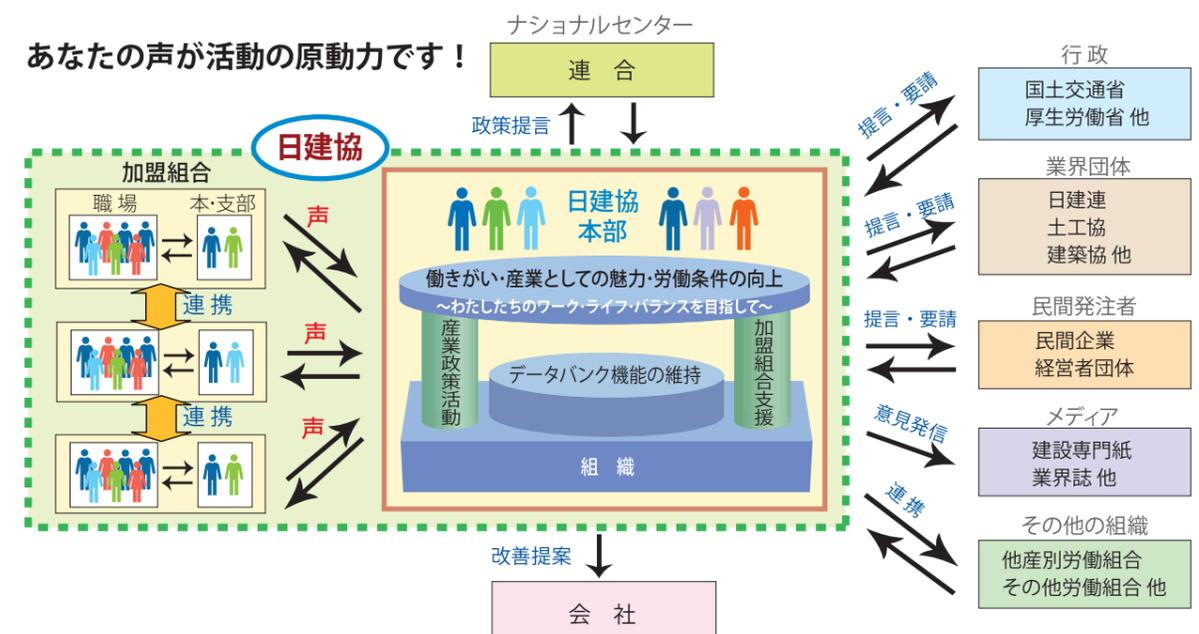
このように、これまで全国各地で加盟組合のみなさんと交流してきたが、日建協の活動を知ってもらうこと、それぞれの活動をどのような目的で行って、どのような方向に進んでいるのかということを理解してもらうことで、みなさんの日建協活動への興味と参加意識が高まっていくことを実感しています。

そして、より多くの加盟組合のみなさんに積極的に参加していただくことで、日建協活動が力強く前進していくと考えています。

今年度からは、みなさんとの意見交換の様子をはじめ、日建協活動全般をより分かりやすくお伝えするために、日建協のホームページにNIKKENKYO NEWとして紹介していますので、ぜひご覧ください。(日建協ホームページ <http://www.nikkenkyo.com>)

また、日建協にこのような活動を進めてほしいという要望などは、みなさんの所属する組合執行部をつづいて日建協本部へどんどんお寄せください。もちろん、日建協活動に対するみなさんからのダイレクトなご意見もお待ちしています。(日建協本部 [nikkenkyo@nifty.com](mailto:nikkenkyo@nifty.com))

加盟組合のみなさんとの交流で得られた活動に対する貴重なご意見は、しっかりと今後の活動に反映していきたいと考えています。



# 統一土曜閉所日を利用して 組合員同士の交流を深めよう！

去る11月8日(土)は、日建協 統一土曜閉所日でした。今回もたくさんの加盟組合の皆さんの運動へのご理解とご参加をいただき、まことにありがとうございました。

さて、今号のCompassでは、より統一土曜閉所日を組合員に意識してもらうための工夫として『統一土曜閉所日に合わせた組合のレクリエーション』を開催しているという加盟組合の取り組み事例を紹介します。

## 五洋建設労働組合(ペンタユニオン) 中国支部 「日ごろの運動不足解消と家族ぐるみのコミュニケーション増進を！」

内容:ウォーキング大会  
場 所:国営備北丘陵公園  
参加人数:140名(組合員家族とも)

ペンタユニオン 中国支部では、昨年に引き続き日建協の統一土曜閉所日である11月8日に広島県最大の公園「備北丘陵公園」にてウォーキング大会を開催しました。これは土曜閉所の推進はもとより、ウォーキング、レクリエーションを通じた日頃の運動不足の解消、家族を含めた社員同士のコミュニケーションの増進を目的としたものです。イメージは「遠足+運動会」。広島県をはじめ山口県、島根県からもバス、自家用車で社員とその家族総勢140名が集まりました。当日の朝はあいにくの雨模様。加えて天気予報も終日「弱雨」。役員はウォーキングの中止も覚悟し、前日には急遽室内レクリエーションも準備しました。こうした不安を天気の神様も察してくれました。現地に着くと今まで降り続いていた雨は途端に止みました。またいつ降り出すかも知れない空を眺めながら役員一同「やれるところまでは予定通りやろう!」という決断をし、今年のウォーキング大会はスタートしたのでした。ウォーキングは公園内歩道を1周する4kmのコース。スタートと同時に走り出す子供たち、ベビーカーを押しながら歩くお母さん、子供の手をとり歩くお父さん、それぞれが自分のペースで歩きました。途中に設置した休憩ポイントではかわいい「うさぎ」と「ぱんだ」のお出迎え。着ぐるみと気付きながら子供たちには無邪気に喜んでくれました。ウォーキングの後はお弁当と自由時間。大型遊具を中心とした広場で皆が思い思いに時間を過ごしました。途中新たに登場した「とら」と「さる」は子供たちに追い回され、中の役員は誰よりも運動不足を解消していました。最後に子供レクリエーションの玉入れ、大人レクリエーションのチーム対抗2人3脚、5人6脚を行いました。2人3脚は夫婦に限定したので日頃不足しがちな夫婦間のコミュニ



ウォーキング中バチリ!



息を合わせて  
「いち、にいち、に!」

とらさん、ピンチです

上手に入れられたかな?

ケーションも十分に取れたことでしょう(笑)。こうして皆の笑顔が最高潮に達したところで楽しかった一日は終了し、気が付けば雨がぱらぱらと降り出していました。

(ペンタユニオン:中国支部長 村田 浩隆)

たくさんのご参加をいただきました!



## 鉄建建設職員組合 大阪支部 「お父はん、しっかり肉焼いてやあー」

内容:天理観光農園みかん狩り&メナード青山リゾート  
(①手作りパン体験 ②温泉)  
参加人数:30名(組合員家族とも)

鉄建建設職員組合 大阪支部では、日建協の統一土曜閉所日である11月8日に大阪~奈良~三重にまたがる『バス・ハイク』を開催しました。この企画は土曜閉所の推進はもとより、組合員とその家族同士のコミュニケーションを深めることが目的です。

内容は、奈良県天理農園での『みかん狩り』の後、三重県にある『メナード青山リゾート』にてバーベキュー&手作りパン体験&温泉。

コンセプトは【子供の笑顔から広がる家族同士の輪 ~お父はん、しっかり肉焼いてやあー~】

大阪で集合した一同は、奈良県天理農園にむけていざ出発。バスの中でお菓子袋をもらった子供たちは、遠足気分。おつまみももらった大人たちは、バスにゆられて観光気分。

当日は、朝から小雨模様。天理農園に着き、心配していた雨にも負けず、スッテンコロリンみかん狩り。もぎたてのみかんを口いっぱいほおぼる子供の姿をみつめる夫婦のやさしい眼差しが印象的でした。そのあと、メナード青山リゾートへ。

さてさて待ちに待った昼食は、秋のバーベキュー。お父はんは肉を焼くのに大忙し。家族は食べることに大忙し(笑)。楽し

い食事が続く中、『ドキドキ・ワクワクビンゴ大会』を開催。空くじなしということもあり、ダブルリーチ!!、ビンゴ!!といった声が飛び交い、大盛況でありました。食事のあとはまだまだ楽しみは続き、温泉にゆったりと浸かったり、手作りパン体験で自分たちが作ったふっくら熱々のパンを食べたり、おみやげショップでの買い物等、自由時間を思い思いに過ごしました。

大阪へ戻るバスの中では、おみやげを手にした子供たちはニコニコ顔。名探偵コナン・吉本新喜劇のビデオ上映もおこない、楽しい時間はあっという間に終了しました。

(鉄建建設職員組合:大阪支部長 石田 靖)



お父はん、焼いてます!



ビンゴ!良かったね!



お父はん、パン作り頑張ってます



おいしくできました!

## 安藤建設職員組合 東京支部 「夢と魔法の王国へ!」

内容:東京ディズニーランド  
参加人数:617名(組合員家族含)

安藤建設職員組合 東京支部では、日建協統一土曜閉所日である11月8日、9日と2日に分けて秋のレクリエーションを開催しました。そう、今年は2年に1度の待ちに待った東京ディズニーリゾートでのレクです! 今年は運よく、前日の11月7日からスペシャルイベントのクリスマス・ファンタジーとやらで、クリスマスツリーが登場とテレビのニュースをみて気分上々↑↑↑。

ただ、11月8日、9日共に天気予報は曇→雨、実際8日の9時くらいから小雨がパラパラ、9日も午後からパラパラとし始め、チョッとローテンションに。。。

でも、でもです。今年は25周年のスペシャル感にあふれる、夢と魔法の王国のクリスマスが見られるんですよ。カッパを着ても、傘を差しても、新聞を頭に掛けてても、見なきゃなんのです。大人も子供も関係なく、シンデレラ城前に集合だっ!。そして、そこは夢いっぱいのスノーランド♪

嫌な上司にお客さん、暗い日本経済の見通しに、年金問題、頭痛の種のローンのことも、さらには活動を休止したサザンのこともこの日はかりはすっかり忘れてクリスマスモードを盛り上げるエンターテイメントを満喫だ。ホントは、いつも『家族サービス』を疎かにしちやうているお父さんのために『家族

サービス』がメインのようですが、しっかりお父さん方の顔もほころんでます。やっぱり、ディズニーって凄い。いつも難しい顔のお父さんを笑顔にさせちゃうんだからね(^ ^)♪。

本来なら、パーク内で集合写真を撮ったり、一緒に食事をしたいところではありますが、今はなかなかそれも難しいので、今年はイーストゲート・レセプションでのチケット配布後に、その周辺で家族や職場の仲間はもちろん、恋人、友人と一緒に写真を撮らせていただきました。皆さん、それぞれに『秋のレクリエーション』を楽しんで頂けたのではと思います。

さあ、ディズニー疲れが抜けたら、支部の組合役員は『春のレク』に向けて頑張るぞっ!

(安藤建設職員組合:書記長 宮崎 知行)



新井前東京支部委員長



松尾東京支部副委員長



青年部役員の皆さん



青年部役員の皆さん

次回の統一土曜閉所日は **2009年6月13日(土)** です。  
加盟組合の皆さんも統一土曜閉所日に合わせたレクリエーションを企画してみませんか。

# 統一土曜閉所運動 キャッチフレーズ大募集

—— 昨年の統一土曜閉所運動ポスター ——



日建協では、「心と体を休める休日」となる「作業所閉所」を行える環境づくりと、組合員が「休むことの大切さ」に気付き、時短意識を高めていくことを目的に、年2回(6月・11月の第2土曜日)閉所日を設定して統一土曜閉所運動を展開しています。

今回は、建設産業に従事する皆様から統一土曜閉所運動ポスターのキャッチフレーズを募集します。

多数のご応募お待ちしております。

**必着 1月23日(金)**

- 【内 容】 統一土曜閉所運動ポスター用のキャッチフレーズ
- 【応募締切】 2009年1月23日(金) 必着
- 【応募方法】 メール、FAX、はがきのいずれも可(未発表の作品に限る)
  - ・e-mail haraki-jcu@nifty.com(日建協 政策企画局 原木)
  - ・FAX 03-5285-3879
  - ・住所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3F
  - 住所、郵便番号、氏名、電話番号、会社名の記載をお願いします。
  - ※応募作品の著作権は日建協に帰属
- 【応募資格】 建設産業に従事している方及びその家族
- 【テーマ】 「統一土曜閉所」「事前準備」「働き方の工夫」「ワーク・ライフ・バランス」
- 【審査】 (1次選考)日建協本部執行委員会にて10作品を選考  
(最終選考)日建協加盟組合の委員長、書記長による全員投票
- 【入賞者の表彰】 優秀賞(2点)2万円相当の商品券を贈呈  
佳作(2点)5千円相当の商品券を贈呈
- 【入賞者の発表】 Compass3月号Vol.781誌上を予定(日建協HPにも掲載予定)  
※応募に際しての個人情報、入賞者への賞品発送以外には使用しません。

## クロスワードタイム

あけましておめでとうございます。本年もみんなで頑張ってください。日建協とCompassをどうぞよろしくお願いいたします。さて、ではさっそくクロス初めをいたしましょう。二重枠の言葉を並び替えると答えが出ます。答え、郵便番号、住所、氏名、組合名、Compassの感想を記入し、はがきかメールでご応募ください。

■メ切:2月6日(金) ■宛先:〒169-0075 新宿区高田馬場1-31-16 守山ビル3階 日建協クロスワード係 (Mailはこちらへnikkenkyo@nifty.com)

ヒント:積極的に取り組みたい  
環境保全活動の一環です。

1	2	3	4	5	6	7	8
9					10	11	
12				13		14	
15			16		17		
18					19		
		20		21		22	23
24	25			26	27		
28				29		30	
31			32		33		
34			35			36	

### ヨコのカギ

- 複数の商品を組み合わせて詰めたお徳な袋のこと。
- 中央の部分が厚くなっているレンズ。
- 二つの場所や物事の間の隔たりが一番近いこと。
- 稲の苗を水田に移し植えること。
- アントニオ猪木のお馴染みの掛け声「イチ、ニ、サン、〇〇」。
- 人間の人格形成に影響する幼い頃の出来事。
- 何かをするのに、ちょうどいいタイミングを取る。また、そのタイミング。
- タイ語で日本や日本人を意味する言葉。
- 本を収めて並べるための棚。
- 下水や雨などが流れるように作った、小さな水路。
- 目を通すこと。初めから終わりまで、ひととおり見ること。
- わきや側面を英語で言う?
- 今年からバンド活動無期限休止をしているサザンオールスターズのデビュー曲。
- 磁力の作用する場所のこと。
- 無意識に出てしまうような、好みや傾向で、その人特有の言行。
- 国が罪をおかした者に与える制裁。
- 王侯貴族の妻の称。
- 特別すぐれた才能。また、その人。
- 悪くならはしないかと心配すること。

### タテのカギ

- 新年のお祝いの贈り物。いくつになってももらうと嬉しいものです。
- 2002年にデビューした滝沢秀明と今井翼の男性アイドルデュオ。
- 屋号を書き、店先にたらず、日よけの布。
- 新しい住まいのこと。
- 普通より水分が多く、練りの柔らかな夏の定番冷和菓子。
- 植物体の一部で、枝葉や花が付くところ。
- 会社名や商品名など、文字を組み合わせて図案化したもの。
- 日本で現在流通している、最小の貨幣単価。
- 物事の発展や繁栄にどれだけ役に立ったかを示すもの。
- 団体の事務をとり扱う役職。
- 外界の物理的条件とは関係なく、生物体内に備わっていると考えられる時間測定機構。
- 乾燥させた鳥獣の肉。
- 利益、損害などを見積もること。
- 英国原産の猛犬。顔が短くて口幅が広い。
- 英名をソードフィッシュと言ひ、和名は他の同種の魚に比べて目が大きいこと由来。
- 犬などが片前足を上げて、差し出された手のひらに乗せる芸。
- アラブ首長国連邦を構成する首長国の首で、中東でも随一の繁栄を誇っています。
- 体の構えや心の持ち方。
- 都はるみの大ヒット曲「あんこは恋の花」。

## No.779クロスワード 正解と当選

答えは「時短推進(ジタンズイシン)」でした。

シ	ア	ワ	セ	ノ	ア	オ	イ	ト	リ
エ	イ	ガ	カ	シ	ウ	オ	カ		
イ	ル	ハ	ン	カ	ヨ	ウ	カ	イ	
	ラ	イ	ト	キ	ヨ	ウ	ダ	イ	
シ	ン	ハ	タ	イ	ケ	ガ	ニ		
ウ	ド	ネ	リ	バ	ジ	イ	シ		
ン		コ	ツ	カ	コ	ウ	ム	イ	ン
	イ	デ	タ	チ	ス	イ	ジ		
ハ	ク	ア	イ	カ	シ	ユ	ウ		
バ	ジ	ル	コ	ウ	セ	キ	ウ		

たくさんのご応募、ありがとうございました。次の方が当選されましたので、追ってクオカードをお送りします。またのご応募お待ちしております。

伊美智恵(アサマ)、館 智子・吉岡 健・平澤達史(安藤)、岩男正行・大村美樹(奥村)、宮 幹子(鴻池)、木村篤徳・竹林 和(佐藤)、沢口 裕・馬場宗明(銭高)、柏木姿織・志鎌敏雄(大豊)、上村智雄・鹿嶋照一郎(鉄建)、一色俊朗・中田 実(戸田)、横島 修・松元和伸(飛鳥)、森下優子(中山)、日光秀和・檜垣幸夫・牧 知美(西松)、川津文治(野村)、峯 純子(ピーエス三菱)、中村真紀(フジタ)、小林秀如(ペンタ)、安井敏夫(松村)、川戸三郎・富永久史(横河) <敬称略>

## もや 船 い

コンピューター産業における開発力の凄さには常に驚かされます。先日、またもや革命的といえるCPU(コンピューターの頭脳)が発売されました。一つの頭脳で考えていたコンピューターが、二つの頭脳で考えるようになり、さらに四つの頭脳を持つようになったのは、つい最近。にもかかわらず、今度は、八つで考えるという凄まじさ。我々、ビジネスマンは、「そんなに早くしてどうするの?」と思ってしまう。事実、日常の業務や生活でもまったく不満に思いません。それより、「お願いだから、安くして!」と陳情したいくらいです。しかし、この開発の速さは、コンピューター産業だけではなく、携帯電話、液晶テレビ、ブルーレイなど家電製品のすべてにいえるものです。消費が落ち込み、円高が進んでも、莫大な費用をかけて新製品をつくり、宣伝を行い、商品

を販売しています。あらためて、建設産業との構造の違いを痛感します。建設産業、特に公共事業は税金を使って物をつくり、国民に使ってもらうのですから、どうしても安くして確実な製品や技術を選びます。最近では、以前よりも新技術も取り入れるようになりましたが、そのスピードが違います。

建設産業が同じようなスタンスで生産活動を行うことはできません。しかし、今のままでは、いっそう産業は不透明なままで、魅力の無いものになってしまうでしょう。2009年を迎えるにあたり、建設産業に新たな一筋の光が見えることを期待すると同時に、我々建設産業に携わる者全員が、自分のあり方・生き方・考え方をしっかり見据えて足元を固め、次の世代への架け橋になる必要があるのではないのでしょうか。(ZERO)

## 編集後記

すでに皆様ご存知のとおり日建協発足当時から大切な仲間であった井上工業職員労働組合が、この度の会社破産申し立てにより組合を解散し日建協から脱退しました。常日頃より真摯な姿勢で、ともに日建協活動をしてきた井上職労組のこれまでの取り組みに対し、あらためて感謝の意を表しますとともに、従業員の方々につきましては、今後のご活躍を心よりお祈り申し上げたいと思います。

日建協では今回の事態につながったさまざまな社会的な要因に対し、非常に理不尽な思いと強い憤り、そして何よりも深い悲しみを感じています。しかしながら忸怩たる思いにとらわれるままに声を上げることが放棄しません。私たちの労働環境改善にむけた前進姿勢が揺らぐことありません。

2009年も日建協は「働きたい」「産業としての魅力」「労働条件」その全ての向上にむけて確固たる方針と取り組み姿勢を産業内外に示し、加盟組合の皆さん一人ひとりのご協力をいただきながら全力で活動してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

# 創ろう! 変わろう! MLU 名工建設職員組合



名工建設職員組合は、先日、組合結成60周年を迎えました。その60周年記念誌の冒頭にはこんなメッセージが寄せられています。『どんな困難な時代も、組合員みんなの力で乗り切ってきた60年間／過去から培った強い結束力には理由(わけ)があります／厳しい時代に苦勞された諸先輩方／現在活躍されている組合員の皆様／そして心から支えてくれる家族の存在／幸せな未来を紡ぎだすのは、強くあたたかい「きずな」／みんなの手と手を携えれば、どんな時代も難なく飛び越えていけるでしょう』今号のCompassでは、この想いを込めたという新組合ロゴのもと、仲間との絆を何よりも大切にす名工建設職員組合にお話をうかがってきました。



後列左より  
金原委員、伊藤委員、樋口労政部長、岡田委員、伊與田委員、書記局 水谷さん  
前列左より  
近藤副委員長、仲島書記長、山川執行委員長、大竹副委員長、棚橋組織広報部長

- 設立：1947年9月
- 執行委員数：15名
- 組合員数：732名(2008年10月現在)
- 執行委員会：月2回

## 組合では年始に組合員の家族宛にダイレクトメールを発送しているそうですね。

組合活動が組合員のご家族にまで伝わっていないという考えが以前より執行部にありました。教宣物を作っても、持って帰ってくれる人が少なく、なかなか家族までは届かない。そこで年始に組合からダイレクトメールを組合員のご家庭へ発送することにしました。年始に年賀状と一緒にDMが届けば、読んでもらえるチャンスも高くなります。中身は、委員長から組合員とご家族に宛てた挨拶、それから組合ニュース、福利厚生だより、アンケート、応募企画としてクロスワードパズルとぬり絵を送っています。アンケートの回答はご家族の方が書いてくれますが、ご家族の方がアンケートやぬり絵をすることによって、普段、組合に興味がないような方が組合活動に興味を持つきっかけになっています。ご家族を含めた組合員とのキャッチボールを大切にしたい、つながりを密にしたいという執行部の狙いにはDMが非常に役立っています。



山川委員長



仲島書記長

## 組合で作られているポスターも他にはない秀逸なデザインですね。

DMのアンケートの返送時に、ご家族の写真を一緒に送ってもらっています。その写真を安全ポスターとして作成し、社内や作業所に貼ってもらっています。自分の安全を心がけるのに、自身のご家族のことを考えることは非常に効果的です。また、ポスターをご覧になった社長が「社員だけでなく、その後ろにこれだけの家族がいるのだと



思うと身が引き締まる」と仰っていました。ポスターは年に2種類作成しています。家族の写真を使ったもの他に、安全や賃金、時短といった内容でデザインし、作成しています。ポスターの「休みも創ろう」「全ては基本から～基本の実践は利益の創出につながります～」といったフレーズには「建設会社なんだから自分たちで利益や時短も創っていこう」という意識があります。組合は単なる「賃金を上げてくれ」と言うだけの要求団体ではありません。労働環境や賃金も自分たち自身で創り上げていこうという執行部の想いがあります。



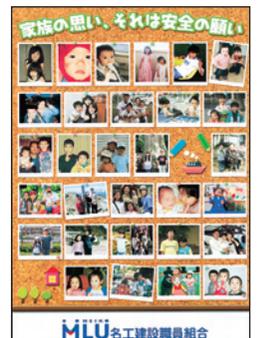
近藤副委員長



大竹副委員長

## 「ワーク・ライフ・バランス」について考えをお聞かせください。

当職組の委員長は、必ず全国オグの挨拶を「皆さん、昨日ご飯を家族で食べましたか?」という一声から始めています。やはり業務が忙しく、組合員の皆さんもなかなか家族と食事をとることができない。家族で食事を取れる方のほうが少ないです。ワーク・ライフ・バランスについては、この状況を逆転させ「えー! 昨日、家族といっしょに食べてないの!？」と周りから言われるような環境作りが必要だと思います。またこういった環境作りには本人の気持ちも非常に大切です。組合としてはそういう方向に本人の意識が向かうような取り組みをしなければいけません。業務が忙しく、なかなか休むことを考えられないかも知れませんが、やはりリフレッシュすることによって見えてくるものもあるのではないのでしょうか。



現在、名工建設職員組合では組合主導で『声かけ運動』を実施中です。これは「危ない」と言うだけではなく「〇〇さん、危ないですよ」と必ず名前を呼んで注意をするという運動で、組合では運動のシールを作り、ヘルメットに貼ってもらっているそうです。このような取り組みにも一緒に働く仲間を大切に思う名工建設職員組合の姿勢が表れています。